



参加者が輪をつくり太鼓を演奏するドラムサークル。中央でファシリテーターとして全をリードする森田孝一郎さん  
—鹿児島市吉野町のきずな学園

ドラムサークルファシリテーター

森田 孝一郎さん

もりた・こういちろう  
44歳  
いて座 A型  
鹿児島市



18歳	鹿児島玉龍高校卒業、鹿児島大学工学部建築学科入学
23歳	大学卒業後、会社に勤めながら、ジャズドラマーとして活動
38歳	ドラムサークルを知り、研究を始める
40歳	ドラムサークルを中心とした音楽事業で起業独立
41歳	ドラムサークルファシリテーター協会の認定を取得
42歳	同協会選定ベストファシリテーター・オブ・ザ・イヤー2009受賞

- ・趣味は料理。パスタ類や創作鍋物が得意。人を喜ばすことが自分の喜び
- ・座右の銘 天まで昇るバカであれ

音楽通し活カアツプ

ドラムサークルは、参加者が輪(サークル)になって太鼓(ドラム)をたたく即興演奏。そこでファシリテーターと呼ばれるガイド役をしています。参加者に演奏を促し、集団をリードしてリズムを作り上げながら、音楽を通じたコミュニケーション、心と体の活性化を図り、参加者を元気づける仕事です。年齢に関係なく初心者でも楽しめ、一体感を味わえることが魅力です。主に学校や福祉施設、病院、企業に出向きます。2007年4月にスタートして4年が過ぎました。ジャンベやアシッコ、コンガ、ボンゴといった世界の打楽器を使います。ドレミハイブと呼ばれるプラスチックの筒や鈴などもあります。

まずは、自由に太鼓をたたいてもらいます。身ぶり手ぶりで全員に合図を送りながら、リズムがまとまるよう働きかけます。次に集団を2分の1、4分の1と分割し各グループをリードしながら演奏を促します。その過程で全体に対する個人の役割、責任に気付いてもらいます。そして再び、全体をまとめてリズムを組み立て、音楽を作り上げます。

ドラムサークルは楽譜を見て演奏するものではありません。何より楽しんでもらうことが第一です。演奏を通じてストレスを発散しコミュニケーション力や活力が高まれば、仕事や家庭が楽しくなり心豊かになれると考えています。参加者は子どもだったり、心の病を持つ人だったり、毎回違います。参加者との信頼関係を短時間でつくるのが難しいですね。状況を的確に把握し、参加者の集団に受け入れられることが最大のハードルです。「絶対に諦めない」ことが信条です。

やる気が見られなかった参加者が、最後には楽しそうに太鼓をたたく、そんな「変化」を見ると、喜びとやりがいを感じます。

中学2年の時、趣味でドラムを始め、大学時代からジャズドラマーとして活動を本格化しました。転機は2005年8月、宮崎でドラムサークルを体験したこと。輪になって太鼓をたたくだけで、初対面の人と連帯感が生まれ、分り合えたような不思議な感覚を得て衝撃を受けました。ぜひ、鹿児島でも広めようと思いました。

それから約1年半、情報を集め、全国を回り研修を受けて研究しました。自分の子どもが通う小学校で練習もさせてもらい腕を磨きました。

残念ながら、ドラムサークルはあまり知られていません。しかし、近い将来、教育や医療、福祉の現場で、ますます必要になると思います。裾野が広がってほしいと考えています。

＜進路＞ 専門学校などはない。普段から音楽に親しんでいることが望ましい。日本ではドラムサークルファシリテーター協会(DCFA)に認定制度があり、研修と試験を経て認定される。  
＜参考＞ 図書「ドラムサークル・スピリット」(アサー・ハル) ドラムサークルはインターネットに情報が多し。

もっと知りたい



①参加者に演奏を促す森田孝一郎さん②次第に笑みがこぼれる参加者③ドレミハイブや鈴などパーカッション楽器④ドラムサークルで使う世界の太鼓